回会報

157 号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
TEL045-832-0504

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石　亨
四方公子
早田美智子

原稿常時募集
次号平成 29 年 5 月予定

新年のご挨拶

代表　森屋治三

あけましておめでとうございます。会員の皆さんにおかれましてはお健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年の第四十回記念新日美展は、事務局長はじめ実行委員長を中心に委員、会員の皆さんの献身的なご協力により企画、準備、運営はもとより万全に整斉と開催することができました。また、展示、出品者、一般入選者、入場者等の数において過去の実績を上回り、記念展に相応しく創立四十年に亘る時の積み重ねを感じさせる展覧会でした。改めて各位に感謝申し上げるとともに労を多とします。

さて、早くも委員会及び事務局では今秋の第四十一回展の準備が始まっています。四十年という長い間歩んできた歴史を四十五年、五十年と将来に向け成長、発展させていくための第一歩の展覧会として、今展では何をなすべきか、指針となるものは何かを見定め具現化していかなければなりません。

多様化された美術界の流れは作品ジャンル、ネットの活用、公募展内容等へ変化を及ぼしてきており、展覧会の内容を見直すよい機会でもある。もちろん作品に関しては、作家個々が制作に専念精進するという昔と変わらないことは言うまでもなく、時代に即した展覧会、力作の展示が魅力的な新日美展となり、皆さんもまた実感するものと思う。

初代（故）中尾会長は「民主的で公正な自由な気風の会であること」「いつの日か美術分野で存在感のある会とする」ことを折に触れ述べ引っ張ってこられた。新年にあたりこの気風と創立の原点に思いを致し四十一回目の展覧会を迎えたいと思う。皆さんの一層のご活躍とご健康を祈念申し上げ新年のご挨拶とします。

文部科学大臣賞
小宮山　修（千葉）
油彩 F100
「足湯への小径」

広く開放的な前景からゆるやかな上り勾配の小径が奥へ続く。画家と同じところに立って一息つくような心地よさに包まれる。石畳みの隙間を埋める草々、岩にへばりつく苔、木々の緑が木漏れ陽の明暗を作りながら、多様で豊かな表情を展開する。わずかにのぞかせた足湯の場の屋根等の直線が、自然の曲線の中で効果的だ

東京都知事賞
児玉八千穂（東京）
日本画 F100
「月　影」

野の草々が繁茂する小径を3匹の野良猫が行く。満月の夜であろうか、草々の葉むれが月光を浴びて白く照り出され、微妙でリズミカルな陰影を作っている。何かの気配を感じたのであろう。母猫も子猫もいっせいに足を止め、こちらに振り返る。その瞬間の肢体をしっかりととらえた。何かしら自分の人生をもかえりみるような深い趣が漂う。

40 回記念展優秀作品

講評　中野　中先生

東京都議会議長賞
四方公子（京都）
水彩 F100
「記憶の中の旅物語」

新日美大賞
上原芳信（埼玉）
油彩 F100
「遊歩道」

新人賞
松井延之（埼玉）
油彩 F100
「黎明華厳滝」

東京都議会議長賞
原　正吾（山口）
陶芸
「天空の城（冬）」

新日美大賞
内野美也子（東京）
粘土細工
「巣穴」

新人賞
湯澤朱美（栃木）
切り絵
「大猷院夜叉」

委員コラム

私の作品づくり

飯村君江

作品の制作にあたっては、表現の材料として、主に真っ白な美濃紙を使っている。その紙を布用の染料と墨を使って染めていくことから始める。和紙は二枚漉きになっているので、剥いでいくと表面よりもその裏側または二枚目に趣のある色彩が出て本当にワクワクする。

この紙をパネル上に貼り下地を作っていく。下地はカッターで細かい線を画面いっぱいに引いておく。抽象造形仕上げのモチーフに向かい、切る、貼る、重ねるを繰り返していく。なかなか思うようにはいかず試行錯誤の連続だ。

近年、墨の持つ力に魅せられ、多く使うようになっている。墨の濃淡は勿論だが滲み、掠れ等も作品の幅を広げてくれているように思う。このことは生前中尾会長にも褒められて嬉しく感じたことがあった。作品の中の滲み、かすれを大変気に入って下さった。

元旦、洛北の鷹ヶ峯に位置する臨済宗の源光庵に行った。元旦にもかかわらず訪れる人も少なく、凛とした空気が気持ちよかった。JRの“そうだ京都へ行こう”でお馴みの四角の迷いの窓、丸の悟りの窓がある、本堂へと進んだ。前者は釈迦の四苦を、後者は禅の円通を表しているとの説明。しばしその前に座って窓からの景色を眺めていた。

穏やかな日々の暮らしに感謝しながらただ座っているのみ。

今年も継続は力なりをモットーに戸惑いつつ、自身の心の変容、断章を紡いで作品を制作していけたらと思う。